



颯娃番所鼻自然公園

鹿児島県南九州市颯娃町は、薩摩半島の南部に位置しています。気候は、夏季の台風を除けば温暖で安定した降水量に恵まれています。市の基幹産業は農業で、「茶」「さつまいも」「大根」などの作物が生産され、中でも「茶」は栽培面積・生産量ともに日本一の産地です。南九州市は平成19年12月1日に旧揖宿郡颯娃町・旧川辺郡知覧町及び川辺町が合併し誕生しました。人口は3万2988名・世帯数は1万6367世帯です。（令和4年5月末現在）

私は2015年8月に颯娃町に移住しました。それまでは大阪の旅行代理店や高知・鹿児島観光協会です仕事をしてきました。移住のきっかけは、颯娃町の町おこしに取り組む「NPO法人颯娃おこそ会」の存在でした。NPO法人颯娃おこそ会は、私たちの故郷であるここ颯娃町をいつまでも住みたいと思える魅力あるまちとすることを目指し活動している団体です。平成22年以降、町内にある釜蓋神社や番所鼻公園、大野岳を起

点とした観光まちおこし活動に力を入れていきます。単に人呼び込むだけの観光地ではなく「住んでよし・訪れてよし」の観光地域づくりに取り組んでいます。



### まちむら発見①

## 農業×観光×空き家 ～地域課題解決と新たな旅

鹿児島県南九州市颯娃町 瀬川知香



畑旅とうもろこし収穫体験



昨今は地域課題

である空き家の再生にも力を入れています。また、私がリーダーをつとめる農業観光プロジェクトでは、主

要産業である農業を観光プログラム化した、「畑旅」とネーミングし展開しています。地域に根差した、地域のDNAを体感できるプログラム・拠点こそが持続可能な観光地域づくりに必要だと考え活動を始めました。

農風景を活かし遺していきたいという想いで畑を農家がアテンドする「畑旅」を実施しています。「畑を耕す以外の農業」の必要性を感じている農家と連携して体験ツアーの開催や、農産物を活用した特産品開発に取り組んでいます。「畑を耕す以外の農業」とは、作物を栽培・販売するだけではなく、自ら畑や作物を案内し、自身のファインを獲得する活動を指します。栽培現場を実際に見た観光客は、農家の想いに共鳴し、作物や加工品を積極的に購入します。イベント仕立てにはせず、あくまでもいつもの現場におじゃまするというスタンスで行っているのは継続実施するためです。

従来の駆け足で観光スポットを巡る旅行ではなく、暮

颯娃町産・焙煎トウモロコシ



茶畑の中の空き家を再生した「茶や、」外観

農業観光プロジェクトは以降、会員をはじめ他の地域組織のメンバーや、行政と連携しながら活動を続けています。これまで、観光に関心のなかった農業者も、人が来ることでモノが売れ、本業である農業収入が上がるということを感じ、地域にとって観光は必要な産業だという認識が変わっ

らすようにじっくりと過ごし、観光地以外のスポットを地元の人と交流を交えながら旅をしたい観光客が増えてきており、需要に応えるため空き家だった古民家を改装し、1日1組限定の貸し切り宿の経営を始めました。宿は素泊まりで、食事や観光は町内の他の事業者のところを案内しています。結果的に、1泊2日という短い期間に町内を巡り、様々な住民と交流してもらうことで地域への愛着が増し、リピート客が増えてきました。また、比較的安価に滞在できる拠点ができたため、移住希望者が宿に滞在しながら地域行事に参加したり、住民と親睦を深めることができるようになり、実際に移住する人も出てきました。畑旅や宿が観光客や移住希望者、住民を繋げる場となります。



大根やぐら



1日1組限定・暮らしの宿「福のや、」内観

てきました。農業閑散期には、観光客の案内なども担い、農家と観光業者の連携が強化されてきました。農業観光プロジェクトと農家の連携による具体的な活動内容は、農産物を活用した新たな特産品の開発販売。青果も含め、新たな販路開拓に取り組んでいます。また茶畑「大根やぐら」の見学など年間通して「畑旅」を実施しています。開発した特産品の販売額は平成27年は0でしたが、令和元年には96万円、畑旅の参加者数は平成27年は100名程度でしたが、令和元年には480名と着実に売り上げや参加者数を増やしてきています。

現在の取り組みは継続して行い、新たに茶畑の中の空き家を再生した物件の活用にも本格的に着手します。茶畑に周囲を囲まれていることから「茶や、」という名称となりました。穎娃の基幹産業である農業発展のため、農産加工品の試作・製造・販売を行うほか、これまで個人客への情報発信や受入が万全でなかったためグリーンツーリズムのワンストップ窓口機能も担えるよう取り組みます。簡易宿所営業の許可も取得済みで、農家民宿としても稼働を始めます。現段階では、まだまだ関わる人材が少なく、地域全体にまで影響を波及できていない現状です。今後、さらに観光と連携することに価値を見出す農家を増やし、また既存の観光施設などが主要産業である農業との連携に必要な感じ相互に協力する体制を築くため、人材育成にも着手します。令和3年9月〜11月には「持続可能な農家民宿開業セミナー」を開催しました。今後も「住んで良し・訪れて良し」の観光地域づくりの発展のため活動を続けていきます。